

視覚障害

その研究と情報

No.195



特集1

ボランティアをどうとらえるか ——公共図書館の協力者ガイドラインをめぐる

◎福井 哲也 1

特集2

世界の潮流、保健マッサージから保管医療としてのマッサージへ ——WBUセミナーを通しての海外マッサージ事情

◎笹田 三郎 11

特集3

長年の願い実現へ ——普通校での点字教科書の国費保障開始に寄せて

◎野々村 好三 23

●ルポ……………29

「点字・点訳学習の機会を!」の声にこたえて

——チャレンジ講習会、ステップアップ研修会を開催 ◎込山 光廣

●施設レポート……………35

ニーズから出た雇用と地域福祉と施設作り

視覚障害者を中心に多角経営の「光友会」 ◎大内 進

●今を走る……………45

「こちら、研究所です」

——パイオニアオペレーター・上野好恵さん ◎高久 加代子

2004
August

点字で読み・書き・計算する点字利用者必携の機器

■点字ディスプレイ ブレイルノート ブレイルメモ

触読(読み)と点字入力(書き)のできるKGSの点字ディスプレイ(BN46X、BM16)は、これまでの不便な点字利用環境からの脱却を促進し、点字利用の便利さ、有効性を再認識させ、点字文化をダイナミックに継承発展させる情報管理機器として、多くの点字利用者に普及しています。思考するときに必要な読む(触読)書く(点字入力)ことを支援する編集機能(訂正、書き込み、削除、並べ替え、検索等)がより充実し、計算のための電卓機能、時計、アラーム、カウントダウン・タイマー、ストップウォッチ機能、カレンダー、スケジュール帳機能により日常生活・身の回りの情報管理に、点字利用者必携の機器となりました。さらにパソコンとの接続による点字ディスプレイ機能は、電子メールの送受信(即時に意思伝達)等に欠かせないものとなり、点字情報の有線電子配信(点字毎日、視覚障害(視覚障害者支援総合センター刊)等)に対応しており、点字プリンタに直接接続しての点字印刷もできます。携帯に便利なキャリングケース(別売)もあります。

■ブレイルノート46X (BN46X)

KGSの点字技術を集大成したスマートかつハイエンドな点字ディスプレイ 8点46マス、6MB、着脱式バッテリー



¥449,000 (非課税)

・オプション 外付けのドライブ(CFD-10S)を接続して、編集した文書を外部メディアに保存可能。音声合成装置(カルガロボイス)を接続して編集中の文書や操作状態を音声で確認できます。

■ブレイルメモ16 (BM16)

パソコンが不得手でも、簡単に使え、場所も選べず、使い方自由自在
8点16マス、2MB、バッテリー内蔵
有線電子配信用には
BM16-SEをご指定ください



¥198,000 (非課税)

■ブレイルノート46D (BN46D)

触読専用でパソコン画面情報をリアルタイムに触読 8点46マス



¥349,000 (非課税)

点から面へ!

点字文化を推進するKGSが提案する新触覚
図形情報を点図の形でリアルタイムに表示

時代は
新触覚へ

■点図ディスプレイ ドットビュー

■ドットビュー Dot View DV-2

32×48ドット、点間2.4mmのファインピッチで構成され、より繊細な点図を表現できる世界最先端の点図ディスプレイ



新製品

¥1,460,000 (税込)

■ドットビュー Dot View DV-1



24×32ドット、
点間3mmピッチ表示部の
標準型点図ディスプレイ

¥680,000 (税込)

パソコン上のあらゆる画面情報を瞬時に表示し、指先から掌で認識活用できる新触覚時代を創造する点図ディスプレイです。「ドットビュー」は、マトリックス状に配置された触知ピンがアップ/ダウンして表示される点図表示部が高速にリフレッシュされるので、スクロールや拡大/縮小などの操作も思いのままです。静止画(図形、グラフ表示、地図等)、漢字はもちろん動画(ゲーム等)、点字も含めたマルチ表示があらゆる場面で自由自在ですから、図形情報アクセスに新たな可能性を開きます。

パソコンの
操作支援ツールとして

図形学習
ツールとして

墨字(一般文字)学習
ツールとして

画像触読
ツールとして

アミューズメント
分野への応用



文章表示画面例



図形表示画面例



Web情報表示画面例



ケー・ジー・エス株式会社
KGS CORPORATION

〒355-0321 埼玉県比企郡小川町小川1004 TEL.0493-72-7311 (代) FAX.0493-72-7337

E-mail: info@kgs-jpn.co.jp URL: http://www.kgs-jpn.co.jp

●掲載製品についてのお問い合わせは弊社営業部まで ※製品の仕様、規格及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。



ボランティアをどうとらえるか ——公共図書館の協力者 ガイドラインをめぐるって

にっぽん
日本ライトハウス点字情報技術センター
ふくい 哲也
福井 哲也

日本図書館協会障害者サービス委員会は昨年11月、公共図書館での音訳者等の導入に関するガイドラインの案を公表した。

「公共図書館の障害者サービスにおける資料の変換に係わる図書館協力者導入のためのガイドライン——図書館と点訳者・音訳者・対面朗読者、ボランティア等との関係」と題するこのガイドライン案が今、視覚障害者情報提供施設（以下「点字図書館」という）にも波紋を広げている。本案は同委員会のホームページにも公開され^{*1}、今年5月末まで一般からの意見募集が行なわれていた。本稿が掲載されるときには意見募集期間は一応終了し、正式版のとりまとめが進められているはずだ。だが、より多くの人がこのガイドラインに関心をもち、さらに論議が高まることを期待して、その内容や問題点について述べたいと思う。

周知のように、視覚障害者に対して点訳・音訳・拡大写本等のサービスを提供している施設には、大きく身体障害者福祉法に基づく点字図書館と図書館法に基づく公共図書館とがある。このうち本ガイドラインは公共図書館だけを対象としている。

ガイドラインの構成は次のようになっている。

- 1 提言の目指すもの
- 2 障害者サービスとボランティアをめぐる現状

3 ガイドライン（提言）

4 障害者サービスの基本的な考え方

5 用語解説

全文は1万字近くの長文なので、その全ては紹介できないが、まず提言の骨子ともいえる「3 ガイドライン（提言）」の一部を引用することにしよう。

1. 対面朗読は、図書館の管理責任のもとで、図書館職員または音訳者が行なわなければならない。たとえ図書館の管理責任のもとでも、ボランティアで行なうことはできない。〈略〉

2. 障害者サービス用資料の製作（点訳・音訳・拡大写本製作等）は、それぞれ図書館に個人登録した資料製作者（点訳者・音訳者・拡大写本製作者等）または職員が行なわなければならない。製作をボランティアや個人ではなくグループに依頼することはできない。

3. 対面朗読者および資料製作者は図書館への個人登録を原則とし、その活動に対し相当の対価を支払わなければならない。対価は、通常、謝金・報償費という形式をとることが多いが、その金額は労働対価といえる金額でなければならない。交通費程度であってはならない。

4. 図書館は、一定の技術水準を有する「資料製作グループ、録音・点字図書等の障害者用図書出版社、NPO法人等」に資料製作を委託することができる。ただし、委託先とは必ず契約関係を結び、相応の対価を支払わなければならない。〈略〉

8. 障害者サービスの初期段階で、ボランティアの自発的献身的努力で図書館の障害者サービスが開始された事例があることを認識し、感謝するものである。図書館はこのボランティアによるサービスを到達点としてとらえることなく、あくまで緊急的・過渡的手段であり、望ましい方法に移行しなくてはならない。

前述（提言 1. 2.）のように、対面朗読や障害者サービス用資料の製作をボランティアに依頼して行なうことは望ましい方法ではない。現在ボランティアで行なっている場合は、速やかに上記 1. 2. のような望ましい方式に移行しなくてはならない。（予算措置等の理由から概ね 5 年以内に改めていく必要がある。）

ここで、ボランティアの定義については「5 用語解説」の中で、「自己実現のために個人の自主的活動として、社会や個人に貢献しようと活動している者」とし、「無報酬性が原則」としている。そして、「活動に対する交通費程度の支払いは経費として社会通念上認められ」るが、それ以上の対価が支払われるいわゆる「有償ボランティア」は、「ボランティアの概念とは矛盾」と述べている。

公共図書館の障害者サービスにおける音訳等は、ボランティアに依存すべきではなく、職員または相応の対価を支払う音訳者等（これをボランティアと区別して「図書館協力者」と呼ぶ）の手により行なわれなければならないというのが、本ガイドラインの最も重要な主張となっている。

では、この主張の背景にあるものは何か。ガイドラインの

立ち読み版はここまでとなっております。

続きをお読みにになりたい場合には
社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター
までお問い合わせください。

— 次号（2004年 9 月 No.196）予告 —

特集 ダスキン研修生感謝のうちに帰国

ルポ これで良いのか点字図書館

私の改革提案 一利用者の立場から ◎水谷 昌史
先達に学び業績を知る 愛盲の精神で、福祉の路を走りぬけた 故・近藤 正秋氏
◎阿佐 博

盲学校レポート 山形盲「図形教材の利用とその作成」 ◎長崎 郁夫

今を走る 津軽三味線で“しゃかりき” 踊 正太郎さん ◎山口 芦風

IT コラム 携帯電話を活用してみませんか!? ◎稲垣 吉彦

★記事掲載についてお詫びと訂正

編集上の都合により今号（195号）では「先達に学び業績を知る」と「ITコラム」は
休載させていただきました。次号（196号）での掲載となります。ご了承ください。

表紙写真：柔道の赤塚正美さん（写真右）と、陸上競技（マラソン）の
高橋勇市さん（株式会社アイ・ティ・フロンティア所属、写
真左）。9月17～28日の12日間にわたって開催される2004
年アテネパラリンピック競技大会では、163人の日本人選手
中30人の視覚障害選手が各国選手と自己の成果を競う。お
二人の活躍も今から期待されている。

月刊 視覚障害 —その研究と情報—

2004年 8 月 No.195

年間購読料 6,000円（送料とも）

発行日 2004年 8 月 1 日

編集人 高橋 実

（連絡先）社会福祉法人 視覚障害者支援総合センター

〒167-0043 東京都杉並区上荻 2 丁目37番10号 Keiビル

TEL (03) 5310-5051 FAX (03) 5310-5053

<http://www.siencenter.or.jp/>

振替口座 00160-4-16103

発行人 障害者団体定期刊行物協会

〒157-0073 東京都世田谷区砧 6 丁目26番21号

印刷所 タナカ印刷株式会社

〒104-0031 東京都中央区京橋 3 丁目12番 4 号

TEL (03) 3567-2551 FAX (03) 3564-2920

★本誌は5媒体出版です。活字の他、点字・テープ・フロッピー・点字メール版、ともに同センタ
ーより発行しています。購読は年間で、点字・テープ半減速（1本）・フロッピー・点字メール版、
いずれも6,000円、テープ普通速（2本）のみ7,200円です。